

# 地域の魅力・再発見!!

## 意外に知らない静岡市の歴史文化

生活関連サービス部会では9月6日、静岡商工会議所会館で第9回「ふれあいフォーラム」地域の魅力・再発見!!」を開催しました。

当部会では、各地域の活性化をシリーズとして取り上げてきました。昨年は、いま注目を集めている用宗エリアを視察し、案外知らなかったことを実感しました。

静岡市と清水市との合併が2004年。蒲原町は2006年に、由比町は2008年に静岡市と合併し、現在の静岡市の形となつて、10年が経ちました。

そこで、今回は、もつと知ってほしい歴史文化がある由比・蒲原エリアなどを紹介します。興味をもつていただけたら、ぜひ、現地を訪れて散策していただきたいと思ひます。



生活関連サービス部会  
部会長  
田中康隆

### 講演 1 蒲原の魅力 富士山と歴史を中心に



木屋江戸資料館・蒲原の歴史を知る会  
代表  
渡邊俊介 さん

#### 山部赤人は「田子の浦ゆ…」の歌を蒲原で詠んだ

京都から歩いてきて、由比の薩埵峠に来ると、美しい富士山が見えます。薩埵峠を下りると、蒲原の山々が邪魔して富士山が見えなくなつてしまいます。そして、旧富士川町との境の手前で突然富士山が眼前に出現します。

蒲原の語源は、富士川の河原に蒲(がま)が生い茂つていた説と、富士山の神々が山から下りてきて広い河原で遊んでいたのが、神の原(神原)と呼ばれた説があり、蒲原領主となつた今川氏の一族は、今でも神原と名乗っています。

山部赤人が「田子の浦ゆ打ち出でてみれば真白にぞ富士の高嶺に

雪は降りける」という歌を詠んだ場所は蒲原だと言われています。

江戸時代の地図には、富士川の西に田子の浦と書いてあります。「万葉集」研究者で詩人の土屋文明氏は「蒲原・岩淵間の山坂を越えて急に展望される富士に感動してあの歌を成したと解するのである」と書いています。

蒲原には、山部赤人を祀る神社が3つあります。お祭では、和歌宮神社を出発した神輿が、日本軽金属敷地内の神社に向かいます。その途中、富士見橋で神輿を一回転させて、神輿の戸を開け、山部赤人に富士山を見せます。

#### 義経と浄瑠璃姫の悲恋物語

三河国矢矧宿の長者の娘・浄瑠

璃姫と、鞍馬山から奥州の藤原氏を頼つて逃げていく義経が矢矧宿で出会い、お互い好きになります。義経は源氏の再興のため、姫と別れて奥州へ向かいます。

義経は蒲原で病気になり、硯水で手紙を書いて、姫に伝えます。姫は義経を看病するために蒲原に来ますが、義経は死んでいました。しかし、姫の涙が義経の口に入ると、義経は生き返ります。

この悲恋物語を浄瑠璃にしたのは、小野於通で、静岡市の松源寺に墓があります。

蒲原には、義経の硯水と浄瑠璃姫の墓があり、姫は、自分の恋が悲恋で終わったので、若い人たちの恋を成就させようと、恋愛の神様になつたと伝えられています。

#### 天下分け目の戦いが3回

蒲原・由比では、天下分け目の戦いが3回、繰り広げられました。

1180年の源氏と平家の富士